

出題分析			
試験時間	100 分	配点	200 点
		大問数	5 題
分量 (昨年比較) [減少	同程度	増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化
			同程度
			難化]
<p><b>【概評】</b></p> <p>昨年に引き続き、英文読解問題 3 題、日本語読解問題 1 題、自由英作文問題 1 題という構成であった。読解問題は例年の傾向通り、時事的なテーマに経済学的な視点を交えた英文が出題された。I と II はフードバンクの是非、III は食料廃棄問題について述べた文章であった。IV は III の英文について批判する日本語の文章で、III と IV の二人の筆者の意見を比較しながら解答することになる。I～III は、空所に語句や文の一部を補充する設問が大半を占めるが、筆者の見解を問う設問や、熟語やアクセントの知識を問う設問なども出題されている。V の自由英作文では、I～IV の長文の内容に言及・反論し、自分の意見を主張しなくてはならない。論理、文法の両方に気を付けて解答することが求められる。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解問題 「フードバンクの役割と重要性」	設問数は 10 問で、すべて英文中の空所に入る語句や文の一部を選択する問題である。設問 4 は本文中の数値をもとにして計算する必要があった。	標準
II	長文読解問題 「フードバンクの好ましくない現実」	設問数は 12 問で、空所補充問題が中心である。設問 21、22 は I と II の英文それぞれの著者の見解に合うかどうかを選ぶ問題であり、両方の英文の内容を整理する必要がある。	標準
III	長文読解問題 「食料廃棄問題とその対策」	形式は II と同様で、空所補充問題を中心とした 11 問から成る。I、II の内容と関連しつつも、異なる話題を取り上げた文章であった。設問 33 では、昨年は出題されていなかったアクセントを問う問題が出題された。	標準
IV	長文読解問題 (日本語) 「食料廃棄問題についての投書」	日本語の文章を読んで英語の設問に答える問題で、設問数は昨年の 4 問から 3 問に減った。解答にあたっては III の文章も参照する必要がある。	標準

設問別講評			
V	自由英作文	I～IV の読解問題のテーマに関して自分の意見を英語で述べる問題である。例年通り、自分の意見と異なる見解に言及し、それに反論することと、問題文 I～IV の内容を取り上げることが条件として与えられている。I～IV の問題文の内容理解も必要となるため解答は容易ではないが、十分対策を積んで試験に臨みたい。	標準

合格のための学習法
長文読解問題には記述解答を求める設問がないが、自由英作文問題は読解問題の内容を基に書かなければならない。そのため、普段の学習から、経済学部で出題される傾向にある、現代社会が抱える問題を扱った英文や日本語の文章を読むようにして知見を深め、どのようなテーマが出題されてもある程度自分の意見は述べられるように準備しておきたい。求められる読解力は、単熟語のレベルも含めて標準的なものなので、英作文の対策を入念に行うことが合格のカギとなる。